

今、大山を超えよ

～難関を突破し、福を掴め～

浦和南高等学校進路支援部
令和5年度進路通信
第7号
2023年11月24日

〈進路支援部主任より〉

『チーム南高』で、みんなで支え合い、高みを目指し、伸びていく集団に！

早いもので11月も下旬となりました。3年次生では、公募推薦にチャレンジしている仲間がいます。一般選抜に向けひたむきに学習に取り組んでいる仲間もいます。2年次生は、オーストラリア研修旅行へ。また、部活動では、新人戦が始まっているところが多いかと思います。

ここで、『チーム南高』という言葉について考えてみましょう。高校は、クラス、年次、授業、部活動、委員会、生徒会、そして学校と、いろんな集団の中で活動しています。その中で、部活動を例にすると、「●●大会優勝！」や「ベスト●！」、「●●大会出場！」などの目標がある場合、達成するために、その目標に向かって努力し、切磋琢磨し、励まし支え合う、「高みを目指し伸びる集団」となっていると思います。高みを目指すことで成長し、目標にも近づくことができます。また、不安や失敗があっても励まし支え合うことができます。仲間と一緒にだから、共に力強く前に進むことができます。これは、勉強や受験でも言えることだと思います。「第一志望合格に向け頑張ろう！」「みんなで勉強頑張ろう！」という前向き集団なら、全体で伸びて行けます。逆に、後ろ向きで、みんなで足を引っ張り合えば、伸びていくことはできません。雰囲気・環境の力は大きいし、大切です。勉強でも、「みんなで●●得意になっちゃおう！」とか、友達と問題に対して議論したり教え合ったりすれば、学びが深まったり、アウトプットの練習にもなります。みんなで学力アップしちゃいましょう！

3年次生は、一般選抜の受験カレンダーを作成しているところかと思います。先日の「河合塾による進路講演会」も参考にしながら、「現役生は最後まで伸びる」、「最後まであきらめない！」ことも意識し、受験校リストを作りましょう。出願間際になって慌てて作っても焦るだけです、今のうちに志望校調べをしてきちんとしておくことが大切です。その際、必ず家の人と相談してください。受験でお金がかかるのは当然ですが、浪人できるのか、一人暮らしをするのか、入学してからのことまでよく話し合ってください。進路決定は自分ひとりでするものではありません。いつも支えてくれている家族への感謝の気持ちを忘れずに試験に臨んでいきましょう。受験当日は自分がやるしかない『個人戦』かもしれませんが、それに至るまでの受験勉強は『団体戦』！（仲間も学校も家族も支えてくれる人も！）。もし苦しい時があっても、進路決定のその時まで、みんなで支え合い乗り切りましょう！また、高校最後の考査である12月の期末考査にも、高校の学習の集大成として、受験の基盤となる学力として、しっかりと取り組んでください。

2年次生は、研修旅行での経験を今後に大いに活かし、帰国後は、期末考査、そして、「受験生になるスタートライン」に立ちます。『2年生3学期＝受験生0学期』と呼ばれたりもします。みんなの1年後を想像しながら、3年生の動きを把握しておきましょう。（進路のしおりも活用してください！）

ベネッセの調査によると、『国立大学やMARCHなどの大学群に逆転合格していった生徒の特徴として「学習」の観点で最も当てはまるもの』をみたとき、その上位2つは、

①『学習習慣』…模試の結果は厳しくても日々の学習には前向きに取り組んでいた

②『基礎学力』…応用問題に苦戦していても基礎的な内容はしっかりと身につけていた

でした。第一志望校合格のために、部活動も盛んな本校だからこそ、引退後に、成績を伸ばすためにも、『基礎学力』を身に付け、継続的に学習に取り組むこと、模試の判定で一喜一憂せず、最後までコツコツとあきらめずに目標に向かって努力をすること、間違えた問題にしっかりと向き合い、理解を深めヌケモレをなくすこと（やりっぱなしにしない、疑問をそのままにしない、復習や解き直しの大切さ）、そして生活習慣の安定を心掛けていきましょう。これは1年次生にとっても大切なことです。

「共に頑張る仲間がいる。」 みなさん一人ひとりが、その「雰囲気・環境」をつくる一員です。このことを意識し、『チーム南高』でそれぞれの夢を実現していきましょう！

(福田)

2023年 11月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---------|----|----|----|-----------------|----|-------------------|
| 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 ①大学 模擬授 | 10 | 11 土曜授業 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 ③河合共テ ブレ |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 2年生 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| 研修旅行、代休 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

2023年 12月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------|--|----|--------------------|--------------------|-----------|------------|
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 土曜授業 |
| 期末考査 | | | | | | |
| 17 | 18 | 19 | 20 ③共通テ スト演習 | 21 ③共通テ スト演習 | 22 終業式 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 | 11月20日(水) 3・4限 1,2年生 社会人講演会(難関大チャレンジセミナー) | | | | | |

大学入試共通テスト 2024. 1.13(土)~1.14(日)まで
あと 49 日(11月24日時点)



苦手克服を実現する6つの視点! 「蛍雪時代 12月号(R5)」

共通テストまであと2か月。苦手意識を引きずっている3年生も多いと思います。今回は文系と理系それぞれ3つずつ、それぞれの専門科目を中心に苦手を克服するために有効な視点を見ていきます。苦手科目がある1,2年生もぜひ、参考にしてください。

どこからが「苦手」?

大きく3つの観点から「苦手」について考えてみます。

- ①受験科目の入試に必要な範囲を終えていないために弱気になっている状況。
- ②受験勉強を進めるにしても、取り組む優先順位が低かったり、後回しにしてみたり、単語や用語を覚えることが中心になり、集中して十分な時間をかけて深みのある質の高い勉強ができていない状態。
- ③受験勉強をしているつもりなのに、受験に向けた勉強の成果が点数に反映されていない状態。

文系

克服するための視点



視点1 「英語の論説文や説明文が苦手な人は段落構成に注目して読み解こう！」

英語の読解総合問題、特に論説文や説明文の問題に自信が持てないと感じている人はいませんか。1つの視点として、パラグラフ(段落)の構成に着目するとよいでしょう。各パラグラフは、①トピックセンテンス(主題文)、②サポーティングセンテンス(支持文)、③コンクルーディングセンテンス(結論文)から構成されています。トピックセンテンスは、パラグラフの最初に来ることが多いので、読み返すなら、各パラグラフのトピックセンテンスをたどるだけでも文章全体の流れが見えてきます。サポーティングセンテンスは複数の文から成り立っています。具体例、原因と結果、タイムオーダー、対比などのパターンが多いので、このパラグラフの構成が分かると、設問に答える手がかりが見つけやすくなります。



視点2 「解答前の**目標時間**設定と構想が記述問題の苦手克服につながる！」

問題に答える解答時間が足りなくなってしまう。時間が足りず記述答案を白紙にしてしまったり、解答している途中で終わったりしてしまう。こうなりがちな人は、解答を始める前に大問の数、選択問題と記述問題のボリューム(特に記述問題の指定字数や語数)を確認して、各大問や記述問題にどの程度時間を割けるか目標解答時間を設定しておくといいでしょう。その際に大事なことは、見直しの時間を必ずとっておくことです。この時間がいざというときに助けてくれます。また、指定の字数や語数が多い問題では、解答を始める前に1~2分程度、構想を練ることで、メモ程度で構いません。文章の組み立てやキーワードを書いておくと、見直しの際に、問われていることに答えている答案になっているか確認できます。

視点3 「苦手科目の勉強を後回しにしがちな**サンドイッチ勉強法**で取り組もう！」

苦手意識の強い科目の勉強が後回しになってしまう。このような人にぜひやってほしいのが、“サンドイッチ勉強法”です。まずは得意科目の勉強から始めて、次に苦手科目、そしてまた得意科目というように、得意科目と得意科目の間に、苦手科目の勉強に取り組むのです。得意科目はすぐに集中できるものですが、苦手科目は気持ちが乗らないぶん、集中の度合いが薄かったり、持続力が高まらなかったりするものです。最初は時間もそれほど長くかけず、勉強のリズムができてきたら時間を少しずつ長くしていきます。苦手科目のあとには得意科目の勉強が待っているとすると、不思議と気持ちが前向きになっていくものです。モチベーションアップが期待できるので、自分との向き合い方の一環として試してみる価値があります。



理系

視点4 「公式や定理などをうまく使えないなら教科書に戻って**本質を理解**する努力を！」

理系科目が苦手な典型例として、基本的な公式や定理、法則をうまく使えないことが挙げられます。そのような場合は「この公式や定理がなぜ成り立つのか」や「この法則が成り立つ条件は何か」などを教科書に戻って見返すことをおすすめします。共通テスト本番まで残り2カ月なので、問題演習の時間が減ってしまう怖さがあるかもしれませんが、理系科目の得点を難関大合格ラインに到達させるためには、物事の本質まできちんと理解することが必要不可欠です。よく理由もわからないまま、なんとなく公式にあてはめて正解できたとしても、再現性は高まらず、本番で正しく答案を書ける保証はありません。今まで習ったすべての公式を調べ直す必要はありませんので、定着していないものだけを拾い出して復習するといいでしょう。

視点5 「苦手克服には**2回以上の演習**が必須！ただし、**回避の戦略**が必要な場合も」

教科書や参考書の問題を演習したときは解けていた内容にも関わらず、いざ学校のテストや模試で少し数値が変わったり文章の表現が変わったりした途端に、問題が解けなくなることも理系科目が苦手な人に起こる典型例です。この場合、その単元を何回演習したかによって対処方法は異なります。まだ授業で新しく習ったばかりで演習回数が少ない場合は、演習不足が原因ですので数値や表現の変化に対応できないのは当然です。最低でもその単元を2回以上演習しないと定着しませんので、根気よく学習に取り組みれば克服できるようになる可能性は十分あります。ただし、3、4回演習してもお手上げ状態のときは、共通テストの選択問題でその単元を避けたり、後回しにする戦略を考えたりするのもありかもしれません。

視点6 「模範解答を読めば理解できた問題」を重点的に演習し、効率的に対策しよう！」

理系科目の勉強に多くの時間を費やしているのにも関わらず、得点が伸びないせいで苦手意識を持ってしまう人をよく見かけます。このような場合、演習問題を3つに分類して対処します。「模範解答を同じ流れで答案が書けた問題」はすでに理解できているので心配はありません。「模範解答を読んでも理解できなかった問題」は学習時間のロスになるのであまりこだわらずに次の問題に移りましょう。大切なのは「答案は不十分だったが、模範解答を読めば理解できた問題」です。ここに重きを置けば効率よく苦手克服ができます。模範解答を書き写すことで目と手を使って記憶したり、先生や友達に答案をみせて採点してもらうことをおすすめします。「読めば理解できる」を「答案が書ける」に変化させることが得点アップにつながります。

すばり予想!

2024年 共通テストに向けて (第1弾)

蛍雪時代 12月号(R5)より一部抜粋



現行カリキュラムでの最後の共通テスト。これまでの出題を分析し、2024年の出題を予測します。あくまでも予測ですが、出題傾向をしっかりと把握することで最後の追い込みに向けた対策ができるのではないのでしょうか。今回は第1弾として「英語」「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B」「国語」の4科目です。次回は「第2弾」として残りの科目を取り上げる予定です。楽しみにしててください。

英語

- 総語数は6000語前後で多様なジャンルの英文読解問題!
- 英文と図表を結び付けて情報を整理する問題が多数出題!
- 複数の文書の断片的な情報を総合的に判断する能力が不可欠!



数学Ⅰ・A

- 数学的観点から社会や自然現象を分析する発展的内容の問題
- 会話による丁寧な誘導をヒントにしながら解答を探る
- 難易度・問題量・問題形式とも従来通りで大きな変化はない



数学Ⅱ・B

- 会話形式で誘導やヒントを与え、読解力・情報の処理能力を要求
- 選択肢の解答形式により、証明、状況の説明、図示も問われる
- 2023年と同程度の難易度で、量的にやや増加すると予想

国語

- 現行カリキュラムの最終年であり、出題形式の変化はないと予想
- 第1・3問で会話形式の問題、第2問で図や文章の完成問題
- 第3問では和歌などの韻文が、第4問では漢詩が出題されるか

